

軽井沢土曜懇話会

第1回 5月19日(土) 15:00~

文化力競争時代の美術館 —国立新美術館の新たな挑戦—

日本の美術館関係者の間では、現状は「冬の時代」と言われています。背景には、国と地方の財政状況が極めて厳しい状況にある中で、国の独立行政法人制度、地方公共団体の指定管理者制度の導入によって、国・公立の美術館の運営に大きな困難が生じていることなどの状況があります。美術館関係者は、学習支援活動の強化、市民の視点に立った運営などについて改善の努力をしています。

一方で、世界の美術館では、「黄金時代」との声が聞かれるほど大型の美術館の新增設が続いており、その概要をご紹介します。

世界は文化力競争時代にあるとの認識に立って、このような状況に対応するための力を結集する必要があります。また、私たち自身が、世界の中での日本文化の特性を理解し、外国にどのように伝えていくかが重要な課題となっています。これらの状況について、東京六本木に新たに開館した国立新美術館での経験を交えてお話ししたいと思います。

講 師 林田 英樹 氏

(国立新美術館長)

略 歴：

昭和41年	3月	京都大学法学部卒
昭和41年	4月	文部省入省
平成 7年	7月	文部省学術国際局長
平成 9年	7月	文化庁長官
平成12年	6月	国立科学博物館長
平成13年	11月	宮内庁東宮侍従長
平成14年	5月	同 東宮大夫(同18年4月まで)
平成18年	7月	国立新美術館長